

KVMコンソール - USB 2.0ポータブルなノートパソコンク ラッシュカードアダプタ (ファイル転送 & ビデオキャプチャ 機能付き)

NOTECONS02



*実際の製品は写真と異なる場合があります。

最新の情報はwww.startech.comでご確認ください

FCC準拠ステートメント

本製品はFCC規則パート15のBクラスデジタルデバイスに対する制限を遵守しているかを確認する試験にて、その準拠が証明されています。これらの制限は、住居環境に設置された場合に有害な干渉から合理的に保護するために設計されています。本製品は無線周波数エネルギーを発生、使用、放出し、指示に従って取り付けられ、使用されなかった場合は、無線通信に有害な干渉を与える可能性があります。一方、特定の取り付け状況では、干渉が起きないという保証を致しかねます。本製品がラジオやテレビ電波の受信に有害な干渉を発生する場合(干渉の有無は、製品の電源を一度切り、改めて電源を入れることで確認できます)、次のいずれかまたは複数の方法を試すことにより、干渉を是正することをお勧めします:

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を変える。
- 製品と受信アンテナの距離を離す。
- 受信アンテナが接続されているコンセントとは異なる回路を使うコンセントに本製品を接続する。
- 販売店が実績のあるラジオ/テレビ技術者に問い合わせる。

商標、登録商標、その他法律で保護されている名称やシンボルの使用

本書は第三者企業の商標、登録商標、その他法律で保護されている名称やシンボルをウェブサイト上で使用しますが、これらは一切StarTech.comとは関係がありません。これらの使用は、お客様に製品内容を説明する目的でのみ行われており、StarTech.comによる当該製品やサービスの保証や、これら第三者企業による本書に記載される商品への保証を意味するものではありません。本書で直接的に肯定する表現があったとしても、StarTech.comは、本書で使用されるすべての商標、登録商標、サービスマーク、その他法律で保護される名称やシンボルは、それぞれの所有者に帰属することをここに認めます。

目次

はじめに	1
パッケージの内容	1
動作環境	1
インストール手順	2
ハードウェアインストール手順	3
LEDインジケータ	3
操作	4
ツールバー	4
Zoom (ズーム) メニュー	6
Video (ビデオ) メニュー	7
File Transfer (ファイル転送) メニュー	13
Keyboard (キーボード) メニュー	15
Mouse (マウス) メニュー	16
Toolbar (ツールバー) メニュー	18
トラブルシューティング	19
技術仕様	20
技術サポート	21
保証に関する情報	21

はじめに

USBクラッシュカートアダプタを使用するには、付属のソフトウェアをノートパソコンにインストールする必要があります。制御対象サーバーに変更は必要ありません。USBクラッシュカートアダプタはいつでも接続し取り外すことができます。USB接続クラッシュカートアダプタを取り外す前にソフトウェアを起動したりシャットダウンしたりする必要はありません。

パッケージの内容

- 1 x USBクラッシュカートアダプタ
- 1 x USB Aタイプ - Mini-Bタイプ ケーブル
- 1 x ドライバおよびソフトウェアUSBフラッシュドライブ

システム要件

ノートパソコン動作環境

- USB2.0対応ノートパソコン
- 20MBの空き容量のあるハードドライブ
- 24ビット対応ディスプレイ
- Windows® 8 / 8.1 (32/64ビット)、7 (32/64)、Vista (32/64)、XP (32/64)、Windows® Server 2008 R2, 2003 (32/64)、Mac OS 10.6以降 (10.10までテスト済み)、Linux 2.6.x - 3.13.x (32/64ビット)

サーバー要件

- VGA対応ビデオアダプタ (オプションのDVIVGAMFアダプタを使ってDVIサポート)
- USBキーボードおよびマウスサポート

インストール手順

Windows

Windowsにソフトウェアをインストールする前に、USBクラッシュカードアダプタの接続を外し、「Add new hardware (新しいハードウェアを追加する)」ダイアログ画面をキャンセルします。これらの画面はインストールプロセスを阻害する可能性があります。

1. 同梱のUSBフラッシュドライブを挿入し、**setup.exe**インストールプログラムを実行します。
2. インストールの画面の指示に従いインストールを完了します。
3. USBクラッシュカードアダプタを同梱のUSB Mini-B - Aケーブルを用いてノートパソコンの空いているUSBポートに接続します。この時点ではサーバーへの接続は必要ありません。
4. 「Found New Hardware (新しいハードウェアが見つかりました)」というタイトルのメッセージが表示されます。
5. Windowsはデバイスのドライバファイルを検出し、自動的にインストールします。これを行うのは1回限りです。
6. これで製品を使用する準備ができたので、主要アプリケーションを起動することができます。再起動の必要はありません。

Mac OS X

注意: Mac OS X バージョン10.8以降では、署名のないプログラムを実行する際に以下のような例外的な操作が必要になる場合があります。[Command (コマンド)] キーを押したままプログラムのアイコン上でクリックし、アプリケーションフォルダを開きます。Finder (ファインダ) ウィンドウ内のアイコンを[Control (コントロール)]+クリックまたは右クリックして[Open (開く)]を選択します。するとプログラムが正常に起動します。

1. 同梱のUSBフラッシュドライブをコンピューターに挿入します。
2. USBフラッシュドライブに表示される**MacOSX-install.dmg**ファイルをダブルクリックします。
3. ディスクイメージを検証し終わると、Finder (ファインダ) 画面が開き、アプリケーションと/Applicationsへのリンクが表示されます。主要アプリケーションをアプリケーションリンクまでドラッグします。
4. アプリケーションのインストールが完了したので、これでお使いいただけます。:/ Applications内にあるアプリケーションを見つけ、ダブルクリックして起動します。
5. このアプリケーションをドックに追加する場合は、/Applicationsからドックにドラッグ&ドロップします。
6. USBクラッシュカードアダプタを同梱のUSB Mini-B - Aケーブルを用いてノートパソコンの空いているUSBポートに接続します。

ハードウェアの実装手順

USBクラッシュカードアダプタのドライバとソフトウェアをノートパソコンにインストールしたら、サーバーに接続することができます。

同梱のVGAケーブルとUSB Type-Aタイプケーブルを接続したいサーバーに差し込みます。DVI-I (アナログ) コンピューターシステムでは、DVI - VGA アダプタを使用します (StarTech.com ID: DVIVGAMF)。



LEDインジケータ

サーバー接続キーボード/マウス: エミュレートされたUSBキーボードやマウスが有効な場合、このライトが点灯します。エミュレートされたマウスを動かすか、エミュレートされたキーが押されると短く点滅します。点滅を繰り返す場合、USBのサーバー接続に問題があることを示しています。接続が外れていたり、ホストのオペレーティングシステムがUSBデバイスを列挙していないことが問題かもしれません。

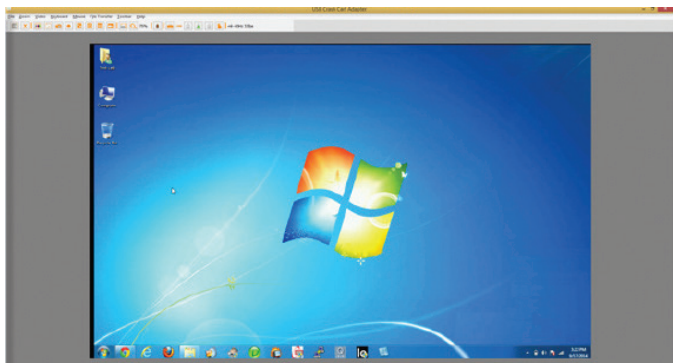
サーバーVGA: これは、有効なVGAビデオ信号を受信中であることを示しています。何も接続されていなければ(または省エネモードにあれば)点灯せず、サポートされていないビデオモードやその他の問題がビデオ信号に発生している場合は点滅します。ビデオ入力状況に関わらず、少なくとも1回はアダプタがアプリケーションソフトウェアに接続されるまで、このライトは点灯しません。

ユーザコンソールリンク/動作状況: ノートパソコンに正常に接続されると、このライトが点灯します。点滅する場合は、ノートパソコンへのUSB接続が確立されていないか、認識されていないことを意味しています。ビデオデータがノートパソコンに送信されると、短く点滅します。

すべてのライトが点灯しない場合、USBクラッシュカードアダプタがいずれのUSB接続からも電力を供給されていないことを意味しています。通常動作では、いずれかのUSBポートがユニットが動作するのに十分な電力を供給します。USBキーボード/マウスのエミュレーションは、ノートパソコンのUSBの接続が外れていても、常に有効です。

操作

接続が確立されると、ホストコンピューターからリアルタイムで送信されるビデオがメイン画面中央に表示されます。



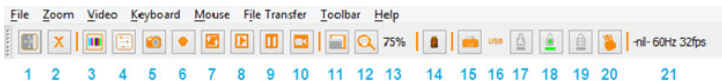
ツールバー

画面の上部にオプションのツールバーが表示されます。このツールバーを非表示設定にしたり、上部から、画面の左右または底部に移動させることも可能です。ツールバーには様々なショートカットがあり、また、動作状況に関する情報が表示されています。すべての機能はプルダウンメニューにも表示されているため、ツールバーを表示させるかどうかはユーザ次第です。

左側または上部のハンドルをドラッグすることにより、ツールバーを移動することができます。現在ある場所から移動すると、右上にある赤い「X」印または丸印をクリックしてツールバーを閉じることができます。ツールバーをドラッグまたは移動する際は、横モードにある場合は上下に、縦モードにある場合は左右に配置（ドッキング）することができます。これらの機能の一部は、ツールバーメニューでもご利用になれます。

ツールバーの右端には動作状況が表示されており、システム実行中の数値データを報告します。最初の下図は1秒あたりのビット数で表示されるUSB帯域幅です。ハードウェアビデオ圧縮により何ら動きが検出されないとビットは送信されません。ノイズの多いビデオアダプタや連続するビデオアニメーションでは、USBトラフィックは継続的に実行状態になります。

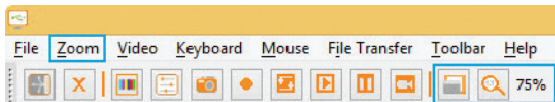
次の2つの番号 (30Hzおよび44fps) は、ハードウェアとソフトウェアのコンポーネントがそれぞれ達成するフレームレートを表示しています。ハードウェアのフレームレート (Hz) 範囲は1 ~ 85Hzですが、通常は30Hzまたは60Hzとなります。ソフトウェアのフレームレートは最大60fps (1秒あたりのフレーム) で、お使いのノートパソコンで使用中の他のソフトウェアにより異なります。



左から右へ:


1. ツールバーの向きを横(表示されているモード)と縦の間で切り替えます。
2. ポケットコンソールアプリケーションを即時停止します。
3. ビデオ画像の微調整を行います。
4. ビデオ関連設定画面を開きます。
5. スクリーンショットを取り、PNG、JPG、BMPファイル形式で保存します。
6. 記録を取ります(ビデオキャプチャ)
7. ループ記録を取ります(ビデオキャプチャ)
8. 過去に記録したビデオを再生します
9. 再生を一時停止します
10. 過去に記録したビデオからムービー(.avi ファイル)を作成します
11. 全画面モードまたは通常画面モードの間で切り替えます。
12. 100%または最大ズーム率で表示します。
13. (50%)現在のズーム倍率をパーセンテージで表示します。
14. ディスクコントロール(ファイル転送)アイコン
15. キーボードの動作状況(問題がある場合は赤い「X」印が表示されます)。クリックすると、特殊キー画面が開きます。
16. (USB)キーボードのUSBモード。
17. [Caps lock]インジケータ/ボタン(有効な場合はアイコンが緑色表示されます。例は無効状態です)。クリックして「Caps lock」を押した場合のシミュレーションを行います。
18. [Num lock]インジケータ/ボタン。
19. [Scroll lock]インジケータ/ボタン。
20. [Ctrl-Alt-Del]コマンドをサーバーに送ります。
21. 動作状況。USB対応周辺機器の帯域幅、ハードウェアおよびソフトウェアのフレームレートを表示します。

Zoom (ズーム) メニュー



Zoom (ズーム) メニュー内には、多くのズーム率設定オプションやズーム率に合わせたウィンドウのサイズ変更オプションがあります。例えば、接続しているサーバーが XGA 解像度 (1024 x 768) の場合にズーム率 50% を選択すると、メインウィンドウサイズは約 512 x 384 に設定されます。

注意: すべてのズーム率が実行可能ではないことにご注意ください。一部のノートパソコンの画面は小さすぎて拡大表示できないものもあります。その場合、ソフトウェアを使って最大ウィンドウサイズに変更します。

多くのノートパソコンの画面は小さいため、このプログラムを最大化して実行したいと思うかもしれません。全画面モードではウィンドウ装飾は排除されその他のアプリケーションは非表示になります。ツールバーの全画面/ウィンドウアイコン () をクリックするか、Zoom (ズーム) メニューを選択します。

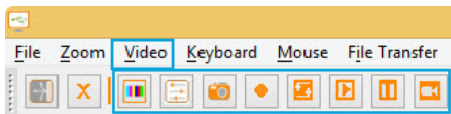
全画面モードを終了するには、アイコンをもう一度クリックします。全画面モードに入ってツールバーが使えなくなっても、Fullscreen (全画面) と Quit (終了) オプションのみの小型ツールバーが表示されます。この小型ツールバーはフローティングバーで、移動させることができますが完全に非表示にすることはできません。

また、Zoom (ズーム) メニューにはウィンドウを画面中央に表示させるオプションもあります。このオプションはウィンドウが画面からはみ出ている時などに便利です。また最大化 (トグル) ショートカットもあります。これはメインウィンドウのタイトルバーにある最大化ボタンを押すのと同じ効果があります。

その他の注意

- ノートパソコンがワイドスクリーン (縦横比 16:10、または 1280x800 など) の場合、ツールバーを左端または右端に垂直に配置すると便利です。こうすると画面の使用可能領域が広がります。サーバーの画面が正方形 (縦横比 4:3) の場合は、左端または右端に垂直に配置することはできません。
- このプログラムはビデオを縮小するだけで、拡大はしません。そのため、テストモード (720x480 またはそれに近い解像度) を画面全体に拡大することはできません。
- 50% 以下の Zoom (ズーム) 率を選択すると、ツールバーは自動的に無効化されます。サイズを元に戻した時に手動で再度有効化する必要があります。
- ウィンドウ内で使用できない部分はグレーで表示されます。これはビデオの縮尺が 1/16 の整数比になっていることと、数値の丸め問題が原因です。

Video (ビデオ) メニュー

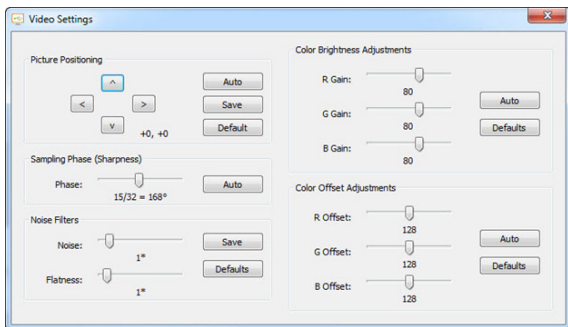


Video (ビデオ) メニューには次のような多くのオプションがあります。Auto fine-tune picture (画像の自動微調整)、Video Settings (ビデオ設定)、Video capture (ビデオキャプチャ)、Save PNG snapshot (PNGスナップショットの保存)。

Auto fine-tune picture (画像の自動微調整)

ビデオのサンプリング位相を自動調整する場合に使用します。画像を鮮明にしてUSBトラフィックを減らします。この操作はビデオを開いた時に自動的に実行されるので、普通はこのオプションは使用しません。調整が実行されている間、画像が1秒ほどフリーズします。

Video Settings (ビデオ設定)



Picture Positioning (画像の位置) - この4つの矢印で、ビデオモニタの位置調節と同じように、ビデオ画像の位置を調整します。将来同じビデオモードが表示された時は、ここで調整した値が自動的に適用されます。**Auto** (自動) ボタンを押すと、ビデオ画像がプログラムウィンドウの中央に自動的に移動します。**Save** (保存) をクリックして変更を保存します。

Sampling Phase (Sharpness) (サンプリング位相 (鮮明度)) - このスライダで自動位相調整を上書きします。**Auto** (自動) ボタンを押して、自動位相調整を再実行します。スライダの下に表示されている数字はコントローラの位相 (角度) を表しています。**Save** (保存) をクリックして変更を保存します。

Noise Filters (ノイズフィルタ) - USBトラフィックを減らし、画像品質を改善するために、ハードウェアには2つのフィルタが搭載されています。デフォルトでは両方が有効かつ「1」に設定されています。カスタマイズした設定を上書き保存することができます (すべてのビデオモードに適用されます)。

ひとつめの「Noise (ノイズ)」フィルタはスペックル雑音を削除します。通常このフィルタに視覚効果はありませんが、高い値に設定されている時にマウスを移動すると数ピクセル分遅延が生じる場合があります。

ふたつめの「Flatness (平面度)」フィルタは、類似色の範囲を同一色に変換して圧縮率を高めます。高い値に設定すると、カラーバンドがはっきり見えるようになります。**Save** (保存) をクリックして変更を保存します。

Color Brightness (色の明るさ) - スライダを調整して暗色または飽和色を固定します。**Auto** (自動) ボタンを押すと、色を自動的に調整します。**Default** (デフォルト) ボタンを押すとスライドの位置が工場出荷時に戻ります。

Color Offset Adjustments (カラーオフセット調整) - スライダを調整して画像中の黒の割合を調整します。**Auto** (自動) ボタンを押すと、黒の割合を自動的に調整します。**Default** (デフォルト) ボタンを押すとスライドの位置が工場出荷時に戻ります。

Save PNG snapshot (PNGスナップショットの保存)

この機能を使用すると、現在表示しているウィンドウコンテンツのスナップショットが撮影され、PNG/JPG/BMP形式ファイルに保存されます。スナップショットは、メニュー項目 (またはツールバーボタン) をクリックすると同時に撮影されます。その後画像ファイルの保存場所を選択します。現在時刻に基づいてデフォルトのファイル名が付けられます。

スナップショットは常に最大解像度かつ全画面で保存されます。

Capture Video Mode Details (キャプチャビデオモードの詳細)

サーバー上で使用されている現在のビデオモード設定を表示した後テキストファイルに保存します。

DDC

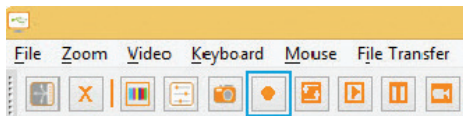
USB接続クラッシュカートアダプタにデフォルトの最大ビデオ解像度を設定します。

Video Capture (ビデオキャプチャ)

Record (記録)

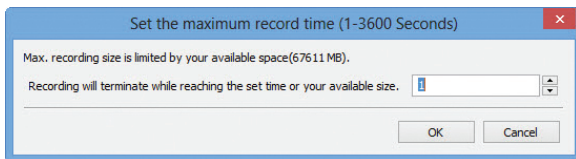
この記録機能は、現在のディスプレイ表示をユーザーが止めるまで、あるいはユーザーが設定した期間に達するまで撮影します (NOTECONS02が接続されている場合のみ機能します)。

Record (記録) ボタンをクリックするか、ドロップダウンメニューからVideo (ビデオ) > Record (記録) を選択すると、記録したファイルを保存するフォルダを選択できるダイアログボックスが表示されます。



注意: 保存先に選択したフォルダに対し「読み取りと書き込み」アクセス権限があることを確認してください。権限がない場合はエラーメッセージが表示され記録が停止します。

Record (記録) ボタンをもう一度クリックするか、ドロップダウンメニューからVideo (ビデオ) > Record (記録) を選択すると、記録が停止します。それ以外の場合はユーザーが定義した期間に達するまでキャプチャが継続します。保存先のフォルダを選択した後、最大記録時間 (1~3600秒、3600秒 = 1時間) を設定します。1~3600の範囲を外れた値を設定すると自動的に1または3600にリセットされます。

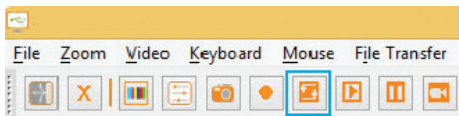


注意: Playback (再生) / Pause (一時停止) は、ビデオ録画中にMake a Movie (ムービー作成) 機能とFile Transfer (ファイル転送) 機能を無効化します。

Loop Record (ループ記録)

Loop Record (ループ記録) 機能は、停止されるまでユーザーが設定した期間最新のビデオを記録し続けます (NOTECONS02が接続されている場合のみ機能します)。この機能は、望むビデオがいつキャプチャできるかわからないが何時間も撮影したくない場合に便利です。

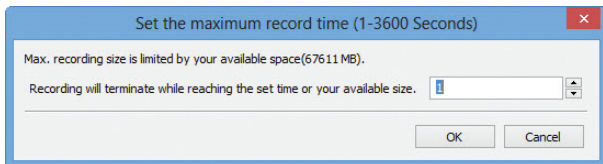
Loop Record (ループ記録) ボタンをクリックするか、ドロップダウンメニューからVideo (ビデオ) > Loop Record (ループ記録) を選択すると、記録したファイルを保存するフォルダを選択できるダイアログボックスが表示されます。



注意:保存先に選択したフォルダに対し「読み取りと書き込み」アクセス権限があることを確認してください。権限がない場合はエラーメッセージが表示され記録が停止します。

Loop Record (ループ記録) ボタンをもう一度クリックするか、ドロップダウンメニューからVideo (ビデオ) > Loop Record (ループ記録) を選択すると、記録が停止します。

保存先のフォルダを選択した後、各ビデオの最大記録時間 (1~3600秒、3600秒 = 1時間) を設定します。1~3600の範囲を外れた値を設定すると自動的に1または3600にリセットされます。事前設定した時間が Y 秒である場合、最終記録時間は Y ~ 2Y 秒になります。

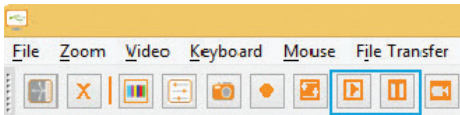


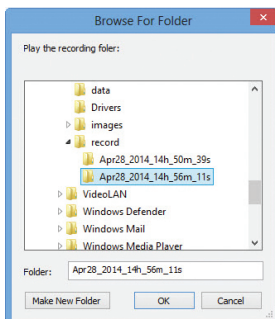
注意:Playback (再生) / Pause (一時停止) は、ビデオ録画中にMake a Movie (ムービー作成) 機能とFile Transfer (ファイル転送) 機能を無効化します。

Playback (再生) / Pause (一時停止)

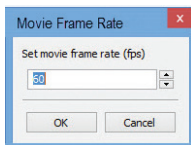
Playback (再生) / Pause (一時停止) 機能を使うと、記録またはループ記録したファイルを再生することができます (NOTECONS02が接続されていても外されていても機能します)。

Playback (再生) ボタンをクリックするか、ドロップメニューからVideo (ビデオ) - > Playback (再生) を選択すると、再生したファイルが記録されたフォルダを選択できるダイアログボックスが表示されます。NOTECONS02が記録したプライベート記録を保存した、「0.out」で始まる有効な記録フォルダを選択してください。





次に、再生フレームレートを1～60の範囲から選択してください（Windowsシステムにはデフォルト値の30、MacとLinuxシステムの場合は60を推奨します）。フレームレートが小さくなるとファイルの再生速度が遅くなるため、より詳細にチェックできるようになります。



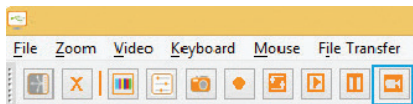
Pause（一時停止）ボタンをクリックするか、Video（ビデオ）> Pause（一時停止）をドロップダウンメニューから選択して、再生を一時停止します。ボタンをもう一度押しすと再生が再開します。

注意:再生中は、Record（記録）、Loop Record（ループ記録）、Make a Movie（ムービー作成）、File Transfer（ファイル転送）機能は無効化されます。

Make a Movie（ムービー作成）

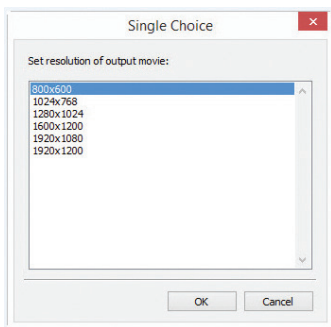
Make a Movie（ムービー作成）機能を使用すると、Record（記録）ファイルまたは Loop Record（フープ記録）ファイルから.avi ファイルが作成されます（NOTECONSが接続されていても外されていても機能します）。

Movie（ムービー）ボタンをクリックするか、ドロップメニューからVideo（ビデオ）> MakeMovie（ムービー作成）を選択すると、ソースフォルダを選択できるダイアログボックスが表示されます。NOTECONS02が記録したプライベート記録を保存した、「0.out」で始まる有効な記録フォルダを選択してください。



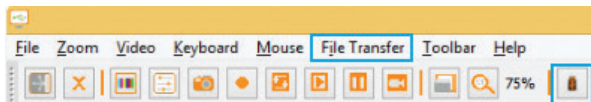
次のウィンドウでaviファイルの出力解像度を選択します。

注意: 選択した出力解像度よりも高い解像度で記録された場合は、出力されるムービーが潰れたように見えるかもしれません。




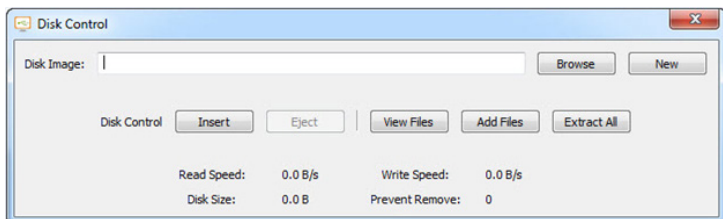
注意: Make a Movie (ムービー作成) 機能の実行中は、Record (記録)、Loop Record (ループ記録)、Make a Movie (ムービー作成)、File Transfer (ファイル転送) 機能は無効化されます。

File Transfer (ファイル転送) メニュー



ファイル転送は取外し可能USBドライブと同様の働きをします。本物のドライブの代わりにファイルを保存しているホストコンピューターのディスクイメージを作成します。画像にアクセスできるのは1度に1台のコンピューターだけです。ディスクイメージが作成されたら (USBドライブのプラグインと同様)、ターゲットコンピューターはディスクイメージを読み込んだり書き込んだりできるようになります。ただし、ホストコンピューターはできません。特別なドライバ無しであらゆるプログラムやオペレーティングシステムから仮想USBドライブを利用できるようになります。

- ディスクイメージはダイナミック形式になっています。例: 10GBディスクを作成し1MBのファイルをコピーすると、1MBとオーバーヘッド分だけしか容量を取りません。大容量のイメージでは効率が落ち、たくさんの小さいファイルに分割した場合はさらに容量が必要になるかもしれません。
- ディスクイメージはVHD形式でMicrosoft Windowsと互換性があり、Windows Explorerでマウントすることができます。
- ISO CD-ROMとDVD画像は、読み出し専用記憶装置としても使用できます。本物のCDを焼かなくても、オペレーティングシステムをインストールできます。
- また、ファイルをビデオウィンドウにドラッグ&ドロップし、自動的にファイルをコピーして一時イメージ (何も選択されていない場合) を作成することもできます。
- ツールバーのディスクアイコン () を押して**Disk Control** (ディスクコントロール) ウィンドウを開きます。



Browse (検索) - 既存のイメージファイルを開きます (ダイナミックVHDファイルとISOイメージに対応)。

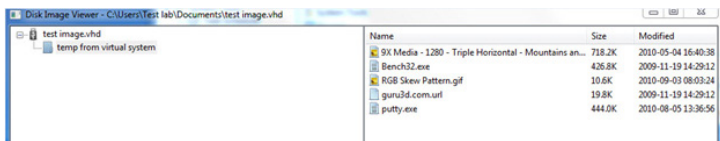
New (新規) - 新しいディスクイメージを作成します (希望するサイズを指定するよう促されます)。

Insert (挿入) - ディスクイメージをターゲットコンピューターに接続します。ディスクイメージがロードされていない場合は、一時イメージが作成されます。一時イメージはプログラム終了時に削除されます。

Eject (排出) - ディスクイメージをターゲットコンピューターから削除します。

View Files (ファイルの表示) - Disk Image Viewer (ディスクイメージビューワ) ウィンドウを開き、現在選択しているディレクトリのディレクトリツリーとファイルリストを表示します (下の画像を参照してください)。ファイルをファイルリストにドラッグ&ドロップしてコピーすることができます。

- 左ペインのディレクトリを右クリックすると、ディレクトリ全体を接続したホストコンピューターに抽出するオプションが表示されます。
- 右ペインで右クリックすると、ファイルのExtract (抽出)、Delete (削除)、Add (追加) の操作およびNew Directory (新規ディレクトリ) の作成ができます。



Add Files (ファイルを追加) - ファイルダイアログが開いて簡単にファイルを追加できます。ディスクイメージがロードされていない場合は、一時イメージが作成されます。

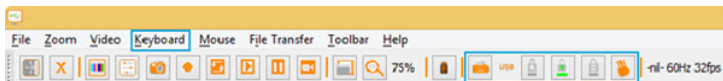
Extract All (すべて抽出) - ファイルダイアログが開いて、イメージコンテンツ全体をホストPCに抽出できます。

Read and Write speed (読み込み/書き込み速度) - 現在のデータ転送速度を表示します。小さいファイルがたくさんある場合は遅くなり、大容量ファイルになるほど速くなります。


Disk Size (ディスクサイズ) - 現在挿入されているディスクイメージのサイズ。

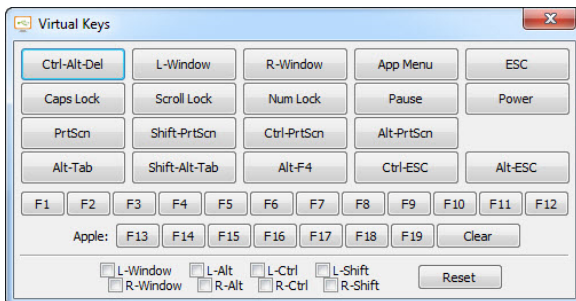
Prevent Remove (削除防止) - 「1」が表示されていると削除するとファイルのコンテンツが損傷する可能性があります。まずオペレーティングシステムから排出してください。

Keyboard (キーボード) メニュー



ほとんどのキーストロークが接続されたホストコンピューターに直接転送されます。しかし、一部の特殊なキーの組み合わせ (Ctrl-Alt-Del など) は、ノートパソコンのオペレーティングシステムによってブロックされてしまいます。

ツールバーのキーボードアイコン () をクリックするか、メニューオプションの **More special keys (特殊キーをさらに表示)** を選択すると、手動で送ることのできる一般的な特殊キーシーケンスが表示されたダイアログボックスが起動します。



このメニューの一番下には各メタキー用のチェックボックス (トグルボタン) が表示されています (左側と右側の両方)。チェックボックスをチェックすると、キーダウンイベントが送信されます。チェックボックスのチェックを外すと、キーアップイベントが送信されます。つまり、この仕組みを利用すると画面上には表示されない複雑なシーケンスを構成することができます。Reset (リセット) ボタンですべてのボックスのチェックを外します。ラインより上の任意のキーをクリックしてもチェックボックスがリセットされます。

例: [L-Window] をチェックした後、キーボードの [E] キーを押すと、[Window+E] シーケンス (Windows Explorer が起動します) が構成されます。

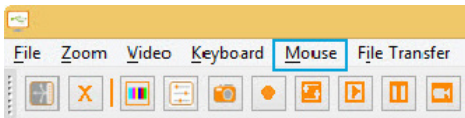
注意: 上部の [L-Window] ボタンは、キーダウン信号とキーアップ信号の両方を送信します。下部のチェックボックスのラベル [L-Window] をチェックするとキーダウン信号が送信されます。その後チェックを外すとキーアップ信号のみが送信されます。

Simulate Hotplug (ホットプラグのシミュレーション) (リセット)

このメニュー項目をクリックすると、キーボードやマウスをホストするUSBのホットプラグができるようになります。ホットプラグは、USBケーブルを取り外し直ぐに再接続する状況をシミュレーションします。USBキーボードおよびマウスのエミュレーションを完全にリセットします。

注意: ホットプラグを起動すると、エミュレートしたキーボードとマウスをホストOSデバイスドライバが再初期化するまで、キーボードとマウスは使用できなくなります。この期間中、ツールバーのキーボードアイコンには赤色の「X」印が表示されます。

Mouse (マウス) メニュー



マウス関連のオプションは**Mouse (マウス)**メニューに表示されます。エミュレートしたUSBマウスにも影響を与えます。

Disable mouse entirely (マウスを完全無効化)

ほとんどの操作でノートパソコンのポインティングデバイス (例: タッチパッド) を使用する必要がありますが、標準的なUSBマウスをお持ちなら、ノートパソコンではなくサーバーに直接マウスを接続することもできます。ノートパソコンの画面とキーボードはこれまで通り使用しながらマウスのエミュレーションを無効化します。ノートパソコンのタッチパッドをうっかり触ってしまってクリックと誤認識されるのを防ぐことができます。

USB KVMスイッチにUSB接続クラッシュカートアダプタを使用している場合もこの設定が推奨されます。一般に、USB KVM製品は高度なHID (ヒューマンインターフェースデバイス) 規格を使用しているUSBマウスエミュレーションデバイスを認識できません。

このモードでは、マウスカーソルが丸にラインのマークで表示されます (🚫)。このマークは当該ウィンドウ内ではクリックが無効になっていることを表しています。

この設定にするとUSBホットプラグイベントが発生します。またこの設定がUSB接続クラッシュカートアダプタのユニット本体に記録されます。

Swap Buttons (ボタンのスワップ) (左利き用)

このシンプルなたグルモードは、左手でマウスを使っている人用です。ボタンの並び順をスワップします。つまり、左ボタンと右ボタンの機能が交換されます。

この設定はノートパソコン上に記録されます。オペレーティングシステムでもボタン

をスワップして使いやすい設定にすることができます。必要なスワップ数やスワップするレイヤーが常に判明しているわけではありません。事前の実験してみることをお勧めします。

To release captured mouse (キャプチャしたマウスの解放) ...

完全マウスモードでは、ノートパソコンのマウスを望む通りにウィンドウ上で動かしくリックすることができます。相対モードでは、マウスはデスクトップを一度クリックしないと動きません。この操作でマウスとその後のクリックをキャプチャし、その動きを制御ホストに送信します。ノートパソコンのデスクトップへの戻り方を説明するダイアログが表示されます。

キャプチャしたマウスを解放する方法は2つあります。マウスで円を描く動きをするか、[Alt+Ctrl+Shift] を同時に押します。円を描く動きは、デフォルトでは無効化されています。

この方法はキーボードのないシステムでは役立ちます。マウスを円に沿って動かすだけです(マウスのボタンは押しません)。右回りでも左回りでもかまいません。最初は動作しなくても続けて円を描き続けてください。

毎回この方法のどちらか、または両方を選択しなくてはなりません。

MacOS X Scaling (MacOS X スケーリング)

このモードはデフォルトで有効化されています。クラッシュカートアダプタをMac OS Xコンピュータで使用する場合に、特殊な適応スケーリング率を適用し完璧な配置を維持します。

Motion reporting mode (動作報告モード)

現在のマウスの動きを報告するモードがサブメニューに表示されています。また、システムを相対モードに強制切り換えするオプションもあります。

USB対応マウスを使用するBIOSシステムには大抵完全モードに対応していません。同様に、BIOS付きDOSで実行される、USBイベントを従来のPS/2マウスイベントに変換するプログラムは、絶対マウスイベントを認識できません。

ホストオペレーティングシステムが絶対モードに対応していない場合、USB対応ノートパソコンのコンソールは相対モードに切り換わります(USBプロトコルでこの操作を行えます)。しかし、相対モードに強制的に切り換えることもできます。この場合はUSBホットプラグイベントが発生し、USB対応ノートパソコンのコンソール自体に内部的に記録されます。コンピュータがUSB HID規格を正しく実装していない場合などに必要となります。

相対モーション vs. 絶対モーション

標準的なマウスは非常に単純なデバイスです。マウスを机の上で動かすと、マウスはコンピュータに移動距離を送信します。マウスを左に2.5 cm動かすと、相対的数字(例: X=-400, Y=0)がコンピュータに送信されます。ホストのO/Sがこの数値を受信し、ユーザー設定を適用した後画面上のマウスポインタを左に動かします。もちろん、マウスが既に左上コーナーにある場合は画面上のマウスポインタは動きません。

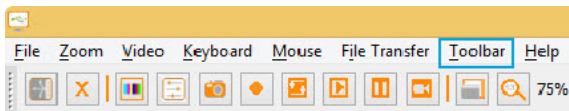
マウスをエミュレートする際、制御対象コンピュータがノートパソコンの画面上のウィンドウのように動作することがベストです。そのため、画面上のマウスポインタを特定の画面位置に動かす際は、相対モーションイベントではなく絶対画面座標を制御対象ホストコンピュータに送信することが望ましいのです。

USB H.I.D. (ヒューマンインターフェースデバイス) 規格は、タッチスクリーンのように動作し、単純にマウスポインタの位置をホストコンピュータ伝える特殊なUSB対応マウスの仕様を定めています。このマウスは最新のWindowsやMac OS Xシステムで完璧に動作します。

しかし、USB KVMシステム、USB - PS/2コンバータ、DOSプログラム、シンプルなオペレーティングシステムその他のシチュエーションでは、単純なUSB対応相対マウスが必要とされています。このため、当社は相対モードでの操作にも対応しています。

相対モードでは、プログラムがマウスをコントロールウィンドウ内に「キャプチャ」します。そのためには、ノートパソコンのマウスイベントを相対イベントに逆変換し、制御対象システムに送信します。マウスがキャプチャされると、接続されているコンピュータの制御以外、システムを操作することはできなくなります。

Toolbar (ツールバー) メニュー



このメニューからはより直接的にツールバーを操作できます。ツールバーの表示/非表示を切り替えたり、簡単に「ドッキング」したり「切り離し(フロート)」たりできます。選択した操作の横にチェックマークが付くのでツールバーの現在の状態が分かります。

ツールバーの状態(切り離し、ドッキング、垂直表示、水平表示、位置など)はプログラム終了時に記憶され、再起動した時に再現されます。デフォルトのレイアウトに戻りたい場合は、Restore default window layout (デフォルトのウィンドウレイアウトに戻す) オプションを使用します。

トラブルシューティング

症状	問題/推奨対処方法
点灯しない	USBクラッシュカートアダプタがいずれのUSB接続からも電力を供給されていません。別のUSBポートを試してください。
画像の左側/上部に黒いバーが表示される	Video Settings (ビデオ設定) ダイアログ上の Picture Positioning (画像の位置) 矢印を使用して、黒いバーが見えなくなるまで画像を左側/上側に移動させてください。必ず変更を保存してください。
ユーザーコンソールLEDが点滅する。またはソフトウェアが接続されていない旨を警告する	デバイスドライバが正しくインストールされているか確認してください (Windowsのみ)。アダプタの接続を外します。再起動します。アダプタのプラグを接続する。「新しいハードウェアが見つかりました」Windowsダイアログは表示されないはずです。
ツールバーのキーボードアイコンに赤色のX印が表示される	エミュレートしたUSB対応キーボードおよび/またはマウスが接続したコンピュータから操作されていません。接続が外れているか、電源が落ちているか、O/Sが停止している可能性があります。この状態では、キーボードもマウスもまったく動作しません。Keyboard (キーボード) メニューの Simulate Hotplug (ホットプラグのシミュレーション) (リセット) コマンドを試してください。
KVMスイッチが動作しない	USB KVMスイッチを使用する際は、サーバーに直接接続するよりも、USB対応マウスのエミュレーションを無効化するか、相対マウスモーションモードに切り換えることを推奨します。USB対応マウスのエミュレーションを無効化すると、KVMスイッチに提示するUSB proleがシンプルになります。また、最も基本的なUSB実装でキーボードとマウスの相対モードを認識し対応できるようになります。
ツールバーが表示されない / 常に全画面表示になる / ウィンドウが大きいまたは小さいままで固まる	メニュー項目を使用します。Toolbar (ツールバー) > Restore (回復) でウィンドウのレイアウト位置とツールバーがデフォルトの状態に戻ります。

技術仕様

PCインターフェース	USB
PCビデオタイプ	VGA
コンソールインターフェース	USB Mini-B (5ピン) (メス)
ホストコネクタ	1 - USB A (4ピン) (オス) 1 - VGA (15ピン、高密度D-Sub) (オス)
最大アナログ解像度	1920x1200 @ 60Hz
電源アダプタ	USBパワード
電源アダプタ	プラスチック
動作温度	0°C ~ 40°C
保管温度	-40°C ~ 70°C
湿度	80% RH
外形寸法	73 x 135 x 15mm
重量	170g
OS 互換性	Windows® 8 / 8.1 (32/64ビット)、7 (32/64)、Vista (32/64)、XP (32/64) Windows Server® 2012、2008 R2 Mac OS® 10.x (10.9までテスト済み) Linux 2.6.x - 3.5.x (32/64ビット)

技術サポート

StarTech.comの永久無料技術サポートは、当社が業界屈指のソリューションを提供するという企業理念において不可欠な部分を構成しています。お使いの製品についてヘルプが必要な場合は、www.startech.com/supportまでアクセスしてください。当社では、お客様をサポートするためにオンライン工具、マニュアル、ダウンロード可能資料をご用意しています。

ドライバやソフトウェアに関する最新情報はwww.startech.com/downloadsでご確認ください

保証に関する情報

本製品は2年間保証が付いています。

また、StarTech.comは、資材や製造工程での欠陥に起因する商品を、新品購入日から、記載されている期間保証します。この期間中、これら商品は修理のために返品されるか、当社の裁量にて相当品と交換いたします。保証で適用されるのは、部品代と人件費のみです。StarTech.comは商品の誤用、乱雑な取り扱い、改造、その他通常の摩耗や破損に起因する欠陥や損傷に対して保証いたしかねます。

責任制限

StarTech.com Ltd. やStarTech.com USA LLP (またはその役員、幹部、従業員、または代理人) は、商品の使用に起因または関連するいかなる損害 (直接的、間接的、特別、懲罰的、偶発的、派生的、その他を問わず)、利益損失、事業機会損失、金銭的損失に対し、当該商品に対して支払われた金額を超えた一切の責任を負いかねます。一部の州では、偶発的または派生的損害に対する免責または限定的保証を認めていません。これらの法律が適用される場合は、本書に記載される責任制限や免責規定が適用されない場合があります。

見つけにくい製品が簡単に見つかります。StarTech.comでは、これが企業理念です。それは、お客様へのお約束です。

StarTech.comは、お客様が必要とするあらゆる接続用パーツを取り揃えたワンストップショップです。最新技術からレガシー製品、そしてこれらの新旧デバイスを一緒に使うためのあらゆるパーツ。当社はおお客様のソリューションを接続するパーツを見つけるお手伝いをしています。

当社はおお客様が必要なパーツを見つけるのを助け、世界中どこでも素早く配送します。当社の技術アドバイザーまでご連絡いただくか、当社のウェブサイトまでアクセスしていただくだけで、お客様が必要としている製品をすぐに提示します。

StarTech.comが提供しているすべての製品に関する詳細な情報はwww.startech.comまでアクセスでご確認ください。ウェブサイトだけの便利な工具をお使いいただけます。

StarTech.comは接続や技術パーツのISO 9001認証メーカーです。StarTech.comは1985年に創立し、米国、カナダ、イギリス、台湾に拠点を構え、世界中の市場でサービスを提供しています。